

「菅総理が決断したコロナ中等症以下の患者の原則としての  
自宅療養についてどう思っていますか？」

令和3年8月11日

●なおさんからの質問

菅よしひで総理が決断したコロナ中等症以下の患者の原則としての自宅療養についてどう思っているか教えて欲しいです。

●西田昌司の答え

菅総理がおっしゃったことは、あくまでも東京都における話です。

現在、東京都における感染者数が爆発的に増えていますし、このまま行けば医療崩壊にもなりかねないので、そうならないよう（命の危険に晒されている）重症者を優先して受け入れるべき、と菅総理は考えておられますが、（東京都以外の）他府県はそのような切迫した状況にはなっていません。

感染者が増えているとはいっても、そのほとんどが無症状あるいは軽症で、治療を必要とするのは感染者の1%程度ですし、死亡者もほとんど増えていません。デルタ株等の変異株が出てくると重症者数が増えるという側面はあるものの、医療サービスが必要な人にきちんと医療を施すことさえできれば感染者の増加そのものにそれほど恐れる必要もありません。

とは言うものの、医療機関の病床数を増やすのはそう簡単にはいきません。先日、京都府知事に会った際、そのような状況になったら野戦病院方式の病床を増やして対応する旨をおっしゃっていましたが、私は京都のホテルを活用すべきとアドバイスしました。

どこかの体育館を借りてベッドを並べなくとも、京都にはホテルの空き室が大量にありますし、ホテルの個室に酸素吸入器・点滴・パルスオキシメーター等の医療装置を備えて医者や看護師を常駐させれば、冷暖房完備の立派な即席病床が出来上がります。体育館のように大きな空間に複数のベッドを並べるよりもよっぽど良い環境となりますし、一般の個室病床と同じサービスを受けられますので、一週間も経過すれば自己免疫力によって回復して元の生活に戻れるでしょう。

ホテルを借りるのは良いが医者や看護師をどうやって集めるか、との声が上がりますが、その心配は要りません。現在、(病院に行くとコロナに感染するのが心配なのでなるべく病院に行かないという) 受診抑制のために手の空いた医者や看護師が増えていますし、相応の手当を示せば必要な人材はすぐに集まります。実際、京都において募集をかけたらずぐに定員に達しましたし、東京においても医師会の協力を得ながらホテルの活用等をすれば道は開けるはずです。

東京における問題は(菅総理ではなく)本来は小池都知事が真正面から取り組むべきですし、小池都知事にはもっと知恵を絞っていただいて今の難局を乗り越えてもらいたいものです。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>